

大会テーマ

大学評価、政策、経営と 「Diversity and Inclusion (多様性&包摂)」 ～ジェンダー視点からのアプローチ～

国公立大学法人化や私立学校法改定から約十年を経て今まさに、グローバル化、イノベーション創出の掛け声の下に、一元的な指標で序列化し、輪切りにして機能分化する大学政策・評価が強まっています。また、全国の全ての大学・短期大学(2014年度:781大学、352短大)を対象に、学校教育法等の改定の下に「内部規則・運用見直し」の一斉総点検が進行中です。大学評価学会は2004年3月28日に設立され、2014年で満十年を迎えました。設立大会で決議した「大学評価京都宣言＝もう一つの『大学評価』宣言」は、「…社会的役割・貢献は、経済的のみならず社会的な広がりをもった多様で多元的な価値視点から求められるものです。この多様で多元的な視点から大学評価を行うことが必要となっている…本学会は、設置形態、教学内容、規模、立地など、それぞれの大学・短期大学が持つ多様性を考慮した大学評価を行い、高等教育研究機関の発展に貢献していきます。」と、述べています。しかし、まだ十分には深められていません。新しい十年に入り、大学評価、政策、経営における「Diversity and Inclusion」を、継続的に探求したいと思います。

第12回大会が開催される2015年は、女性差別撤廃条約批准30周年にあたります。そこで本大会では、朴木佳緒留氏(神戸大学教授/前・発達科学部長、大学院人間発達環境学研究所長/現・学長補佐(男女共同参画推進担当)/ご専門:ジェンダー問題と教育・学習)に基調講演をお願いし、まずはジェンダー視点からアプローチすることによって、現状と課題を明らかにします。多数の方々の参加をお待ちしています。

日時: 2015年2月28日(土)～3月1日(日)

場所: 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス・B号館2階

住所: 神戸市中央区港島1-1-3

アクセス: JR神戸線「三ノ宮駅」、阪急・阪神・神戸市地下鉄「三宮駅」から

神戸新交通ポートライナー「みなとじま駅」下車、西へ徒歩6分

参加費: 会員 1500円/会員外 3000円(申込不要)/院生・学生等 1000円

懇親会費: 4000円(院生・学生等 2000円/「院生・学生等」扱いは会員・非会員を問わない)

大会連絡先: 大会実行委員会 委員長・水谷 勇(神戸学院大学人文学部&教職課程)

E-mail: mizutani@human.kobegakuin.ac.jp TEL: 078(974)1511(代) FAX: 078(976)7296

2月28日

9:00～ 受付 (B号館2階学生ラウンジ)

9:30～12:00 第1分科会 (自由研究発表)

[A会場：B208] 「授業研究・実践研究」 司会：石井 拓児 (愛知教育大学)

- 1) 藤原 隆信 (京都経済短期大学) 「社会貢献ビジネスと大学教育——『町家カフェ』の実践——」
- 2) 安井 健 (神戸大学研究員) 「大学における『生活指導論』の授業づくり——非常勤初年度の試み——」
- 3) 亀澤 朋恵 (愛知江南短期大学) 「短期大学における保育の美術・造形指導——着任初年度の試み——」
- 4) 國本 真吾 (鳥取短期大学) 「保育者養成短期大学における学生教育の試みと課題」

[B会場：B209] 「大学経営・大学運営」 司会：蔵原 清人 (工学院大学)

- 1) 細川 孝 (龍谷大学) 「公共性と大学経営——ファンドによる大学経営の事例を通じた考察——」
- 2) 米津 直希 (稚内北星学園大学) 「地域に根ざした大学づくりの課題と可能性
——稚内北星学園大学におけるCOC事業の取り組みから——」
- 3) 浪本 勝年 (日本教育法学会理事)・田中 耕二郎 (追手門学院大学)
「学問の自由・大学自治と大学ガバナンス・マネジメント」

12:00～13:00 昼食休憩 (第V期 第12回理事会)
(※会員控室：B207、理事会：B204)

13:00～13:50 第12回会員総会 (B214講義室)

14:00～17:45 シンポジウム (B214講義室)

[基調講演]14:05～15:00

「大学の男女共同参画の課題と展望

——男女共同参画はどこまで進んだか——」

朴木 佳緒留 (神戸大学)

論文：「ジェンダー・エクイティ実現のための教育戦略」(2004)、「家庭・地域・学校を通じたジェンダーフリー教育」(2004)、「成人女性の教育と男女共同参画社会」(2004)、「大学におけるジェンダー教育の実践と課題」(2011)、「労働の場のエンパワメント」(2013)、「ジェンダー平等は生活不安克服の鍵」(2013)「ジェンダー平等な職場づくりのための学習課題——職場慣行の『見える化』」(2014)など。

[報告]15:00～16:20

1) 「公立大学の男女共同参画の現状」 廣森 直子 (青森県立保健大学)

2) 「知の共同体を再考する：大学における多様性とハラスメント」

湯川 やよい (日本学術振興会特別研究員PD)

[討論]16:30～17:45

<司 会> 日永 龍彦 (山梨大学) 小山 由美 (日本大学)

18:00～19:45 懇親会 (A号館1階「クルーズカフェ」)

10:00～12:30 分科会（午前部）

3月1日（日）

第2分科会（B 208） 座長：川口 洋誉（愛知工業大学）**「発達保障」テーマ：ノン・エリート青年の大学教育と発達保障**

<趣旨> 大学全入時代を迎え、現実の大学は多様な学生を受け入れている。そのなかには学力的、経済的、精神的、また人間関係の面においても困難を抱えた青年たちが決して少なくない。一方で、今日、「グローバル人材」の育成が国家戦略として掲げられ、大学・大学院は「主要な担い手」として捉えられている。それにより、大学の機能分化とそれに伴う資源配分、四大進学率抑制と専門学校等の充実、「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関」の制度化、学校体系の複線化など、財政的制約のなか効率的にグローバル人材の育成を図る施策が構想・展開されている。そのようななかで、公教育機関としての大学はどのように学生に向き合い、彼らの発達を支援することができるのだろうか。本分科会では、発達論の観点からノン・エリート学生の現状を把握するとともに、彼らが大学で学ぶ意味やその動機づけについてキャリア形成論や教育実践の観点から検討したい。これらを通して、多様な学生を受け入れる青年期教育機関としての大学の評価視点を探る。

- 1) 西垣 順子(大阪市立大学)「青年教育としての大学教育を拓くために—発達心理学の観点から—」
- 2) 古里 貴士(東海大学)「学校と職業との狭間で—短期大学教育実践報告—」

第3分科会（B 209） 座長：井上 千一（大阪人間科学大学）**「大学経営」テーマ：大学自治のあり方としての法人経営(ガバナンス、マネジメント)とは—政府・財界の「大学ガバナンス改革」の検証(批判)をとおして—**

<趣旨> 大学法人(国立大学法人、公立大学法人、学校法人)は、権利・義務の主体となりうる資格を与えられた存在である。「主体となりうる資格」とは、政府からも「同族」からも宗教団体などからも独立した存在であるということだ。しかし、日本では企業自治は確保される一方で、大学自治は確保されていない。さて、大学法人を代表するものは学長であり理事長である。これらの代表者は法人たる主体の権利・義務を代表することになる。では、「法人たる主体の権利・義務」をめぐる諸関係とは一体どういった内容であるのか。つまり、大学法人が経営している教育・研究の主体の権利・義務関係(ステークホルダー間関係でもある)とはどういった内容であるのか。本分科会では、大学の社会的責任(社会に対する教育・研究的責任)という観点から法人経営と大学自治(学問の自由に基礎づけられた)のあり方の今日的性格づけを行う。それは、大学自治のあり方としてのガバナンスとマネジメント(法人経営)の今日的性格づけの解明である。

- 1) 松田 正久(愛知教育大学前学長)「国立大学法人の運営と大学自治をめぐって」
- 2) 堀 雅晴(立命館大学)「大学ガバナンス論と大学経営

——2014年改正学校教育法の中で考える——

<コメンテーター> 重本 直利(龍谷大学)

12:30～13:30 昼食休憩（第VI期 第1回理事会）

（※会員控室：B 207、理事会：B 204）

3月1日(日)

13:30～16:00 分科会(午後の部)

第4分科会(B 208) 座長：塩野 博雄(立教大学)

「教職協働」テーマ:学生支援・学修支援としての教職協働

＜趣旨＞大学教育の中では、教員も職員も学生の人間的な成長を支援するという役割を担っている。今や職員は単なる事務業務のスペシャリストではなく、教員職員一体となって学修(学生の主体的な学び)支援のできる専門性のあるゼネラリストであることが求められている。このように学生を主役とした学修支援者としての教職協働という視点・方向から、事務職員の職場における諸問題のうち、①学生支援、②学修支援にも関連するFD、の課題を取り上げ、学生のみならず教職員とくに職員の発達保障の点を含めて議論していきたい。

- 1) 安部 有紀子(大阪大学)「教育改革パートナーとしての職員に何を求めるか？
——学習を促進するための職員像をさぐる——」
- 2) 山本 愛(立命館アジア太平洋大学)「私の経験した2つのFDから得た気づき
——“プロデューサー”としての職員の役割/教員に求めるよりも“寄添う”——」
- 3) 丸尾 和代(神戸学院大学)「神戸学院大学のFD活動について
——教職協働の視点にそって——」

第5分科会(B 209) 座長：渡部 昭男(神戸大学)

「発達障がい」テーマ:発達障がい青年の学び保障と移行支援

＜趣旨＞大学・短大・専門学校等では、少なくない発達障がいのある青年が学んでいる。発達障がい青年の支援について、大学・短大等における支援の動向、発達障がい者のために新設された「法定外・見晴台学園大学」の取り組み、発達障がい者の移行支援を行っている「NPO法人クロスジョブ神戸」の実践を報告していただき、参加者で議論を深める。

- 1) 金丸 彰寿(神戸大学大学院生)「大学等における発達障がい青年の支援」
- 2) 古山 萌衣(法定外 見晴台学園大学 客員共同研究員)「見晴台学園大学の設立と実践」
- 3) 松原 崇(NPO法人クロスジョブ神戸Ⅱ)「学校から社会・仕事への移行支援の実践」

16:10～17:00 総括討論(B 207)

司会：植田 健男(名古屋大学)

＜大学評価学会共同事務局＞

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11 神戸大学発達科学部 渡部昭男研究室
E-mail : akiowtnb@port.kobe-u.ac.jp / TEL & FAX:078(803)7726

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学経営学部 細川孝研究室
(会費・発送・HP管理) E-mail : hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp / TEL & FAX:075(645)8634